

レアメタルの製造で 独自の存在感



稀産金属株式会社

**塩化ニッケル加工で急成長
5年で3倍強の売上増**

産業のビタミン剤といわれるレアメタル。最先端産業を縁の下で支える、リチウム、セシウム、インジウム等のレアメタルの製造・販売を行う稀産金属。平成20年には創業50周年を迎えた。世界各国が激しい争奪戦を繰り広げているレアメタルは、その質が最終製品の質も決定するという。「単に原材料を輸入して精錬・生産するだけでなく、最終製品を見据えた加工が重要視されます。当社は形状や外觀、不純物等の度合いをコントロールする技術に優れています」と末包恵一郎社長。平成15年に20億円弱であった売上は平成20年に64億円と、5年で3倍以上に伸びた。売上が長く10億円前後で推移していた同社。かつては2000種類に

およぶ材料加工を手がける典型的な多品種少量生産の形態をとっていたが、大幅な選択と集中を行った結果、現在は120種類まで絞り込んだ。売上の壁を越えるきっかけとなったのは、積層セラミックコンデンサーに利用される塩化ニッケルの加工だった。これが携帯電話、DVD、液晶テレビ向け等の出荷増で大きく伸びた。「形状や粒径、外觀等によって性能が大きく異なるニッケルを用途に応じて最適な加工ができたのは、それまでに多くの材料を手がけてきた蓄積のおかげでしょう」。

第二の主力は、レントゲンで使用される蛍光材料である臭化バリウムとヨウ化バリウムだ。レントゲンがより精細に映されるためには、質の良い材料が求められる。不純物を入れることで、より高性能な材料となるが、この不純物の濃度や入れ方にノウハウがあるのだ。

太陽電池材料は 世界一の取り扱い量

太陽電池の利用が世界的に進むなか、その材料としてカドミウム・テルル系化合物が特に欧米で注目を集め、増産が続いている。同社はこのカドミウム・テルル系化合物でも、現在世界一の取り扱い量を誇る。数年前には取り扱いをやめる寸前までいったというが、末包社長は「このままやめたら負け組。世界一になるまでは頑張ろうと、思い切って設備も一新した」という。

詳細はまだ明らかでないというが、新規プロジェクトの立ち上げ

も検討中だ。すでに本社隣接地に用地を取得しており、「こちらも世界一の事業にする」という。「新規プロジェクトはすべて若い人に任せています。任せることで従業員も意気に感じて、朝7時には会社に来て猛烈に働いています。トップが明確なビジョンを示し、全員が同じベクトルを向いて取り組まなくてはなりません」。近い将来の売上100億円突破も視野に入ってきた。産業を下支えする同社の動向から目が離せない。

稀産金属株式会社

Company
Profile

住所 / 〒555-0041
大阪府大阪市西淀川区中島2-13-57
創業 / 昭和30年
設立 / 昭和34年7月
資本金 / 1,000万円
従業員 / 59名 (平成21年1月現在)
TEL / 06-6473-5227
FAX / 06-6473-4174



すえかね
末包恵一郎さん
代表取締役

主な事業内容

稀有金属化合物の製造・販売、
稀有金属等各種の
湿式精錬、各種の
金属酸化物の属原
製造、有価金属媒
の回収、触媒
料の製造、腐蝕
媒の回収 等

ISO 9001

全国
19

<http://www.kisan.ne.jp/>